

ローカルヒーロー通信 第1号

特集 ～ ヒーローの誕生 ～

『ローカルヒーロー通信』 創刊の辞

全国各地でヒーロー達が活動しています。「ローカルヒーロー」「オリジナルヒーロー」など名称も様々、活動目的も内容も規模も様々ですが、その多くは人々と触れ合うだけでなく、ステージの上で傷つき、命懸けで戦いながら自らの正義を示そうとします。他のキャラクターコンテンツには見られないその姿は、口先だけではない強力なメッセージ性を持って観る者に迫ります。またステージ上だけでなく、地域貢献、福祉、啓発活動などなど、「ヒーロー」は様々な分野で力を発揮できる可能性を持っているといえるでしょう。

一方で、ヒーローを運営する多くの団体は、様々な課題も抱えています。運営に行き詰まりを感じている方もおられますが、団体運営の情報を手に出来る機会が豊富とはいえません。また第三者からは「テレビ番組の模倣」「大人の怪獣ゴッコ」「税金の無駄」等と根拠のない雑言も聞かれます。ヒーロー達の実態、特に多大な社会貢献を、当事者とファン以外の第三者が知る機会は、多いとは言えないでしょう。

そんなヒーロー達の実態を知り、その力と魅力を広めたい。これが本誌の目的です。毎号テーマを決め、ヒーローの担い手の方々の声を聞いていきます。

卯都木 睦氏

『時空戦士イバライガー』

最初のヒーロー体験

子供の頃からヒーロー好きでした。3歳くらいの頃、町の電気屋さんにウルトラセブンが来たんです。本物見て、抱っこしてもらって、写真撮って。で、親同士が知り合いの家だったので、店の裏に入ったらスーツアクターの人が着替えているのを見て。その時子供心に「男だな」と感じました。すぐ懐いて、離れないもんだから、母親が「じゃあ一緒にお風呂入っちゃえよ」って。当時は握手会とかあると、終わったらそこでお風呂に入ってもらおうというのが定番でした。僕は内緒でアクターの人と一緒にお風呂に入らしてもらったんです。それが一番最初ですね。今思うと凄いことですよ。

イバライガーの誕生

自分の会社が倒産した時、友達がなくなる、周りにいた人がさっと引く、僕一人きりになったんです。一文無しになって、誰もいなくなった時、最終的に人間が生きる目的ってなんだろうって考えて。リレーのように誰かに何かをつないで行って、その人に自分のエネルギーを与えてあげて、その人が成長していくような、そういうことをしなくちゃいけない。笑顔に人をさせることが、自分に一番向いているんじゃないか、そういう気持ちで活動を始めました。当時はご当地ヒーローも2、3件しかなかったんじゃないですか。

2007年の春にイバライガーはデビューしましたが、その準備に大体一ヶ月半くらいかかりました。ここ(現「茨城元気計画」事務所)を借りた夜にデザインおこして、次の日から作り出しました。目のバイザーは羽ばたくヒバリの形になっています。口は鳥の嘴のイメージです。ボディのあちこちにある矢印は、自分の人生観なんですけど、人は必ず前に進んでいかないといけないから、どんな時も前進しよう、という気持ちなんです。基本的にどの矢印も上か前を向いています。矢印をアクセントにしたんで、じゃあ何個矢印を体に入れられるかな、って考えて、いたるところ矢印だらけになっているんです。頭の矢印とバイザーが組み合わさって、風に乗って鳥が飛んでいるように見え

ます。それと僕はアメコミ好き、バットマン好きなので、あのダークな感じを映像に出したいんですけど、それでは地元でも人気が出ないんじゃないかと思って、色は派手に紅白模様になりました。

名前は最初すごく考えました。住んでいるつくばを名前に入れようと思ったんですが、外に行った時仕事が減るんじゃないかとか。最初からアメリカに行くことを考えていましたので。でもまずは茨城を克服しなければ次のステージに行けない、と想着、「イバライガー」になりました。将来アメリカに進出したら「ライガー18」と名乗ろうと考えています。18はイバと読めますね。

当初は戦いの要素はありませんでした。お祭とかで5分くらい尺貰って、自分でスーツ着て、ラジカセでそれ風のフリーの音楽流して、ポーズとって、隣で誰かしらに喋って貰って、後は握手会して、ですね。でもヒーロー好きな人とか集まって、すぐに20人くらいの構成でショーができるようになったんです。イバライガーの声は、最初の頃は芝居やっている女の子に声優やってもらってました。アクションは独学です。

人が増えるに連れてキャラクターも増えていきました。敵のダマクラカスンは、知り合いの伝で貰ったスーツでした。最初に増えた味方はミニライガーです。うちは男の子三人なんですけど、僕がスーツ作ったら子供たちがずるいよ



って、よく考えたらこんな小さな子がアクションして戦ってたらかわいいだろうなって。すぐに作りました。それから僕が経験してきた苦しみとか悲しみとか、それをどうやって出そうかと思って、イバライガーブラックを作ったんです。活動が始まって一年くらい後だったかな。初代イバライガーとブラックは僕が演じています。その後イバガールを作りました。ハイパーイバライガーは手をかざすだけで戦える、丁度僕が怪我したりとかあったんで、何もなくても絵になるものをとを考えて作りました。初代イバライガーは3人のミニライガーがバックアップする設定だったので、ブラックやイバガールが増えるとそれぞれにミニライガーが出てくる。うちはアクターの代えがないので、イバガールが出られない時はミニガールが出る等、実際にバックアップとしての意味もあります。

怪我の記憶

5年くらい前ですかね。ショーの最中に跳び蹴りしたら、足プチって、靭帯切れちゃって。そのまま這い躊りながらショー終わって、でも僕はファンが待っているからって両肩抱えられながら握手会出て。それを見ていたファンの人たち、特に男性のお父さん方が感動して、泣いてくれた方もおられて。その日は一日二回ショーだったんですが、二回目は腫れた足をテーピングでぐるぐる巻きにして出たんです。案の定跳ぼうとしたら跳べなくて、手業だけで一応敵を倒して、また握手会出て。その足で病院行って、パンパンに腫れているんで血を抜いて、固定して。でも翌日がファン感謝デーだったんで、次の日また変身して、会場のホームセンターに行って、貸してもらった車椅子でイベントに出たんです。足は全治一年とかって言われて、年齢的にも手術はリスクが高いということで、筋力だけで支えることにして、スポーツジム行って鍛えて。反対の足でカバーしてショーに出ていたんですけど、一年後くらいに反対の足も切っちゃったんです。カバーしていたから負担が来ていたんですね。ショックだったです。

ヒーローとして、運営者として

僕は何度も死の経験をし、挫折も一杯経験してきました。まだローカルヒーローなんて無い中で、真っ暗闇の中を模索しながら前に進んできましたが、そうすると色々な感覚が研ぎ澄まされてきます。こういう第6感を鍛えているといいですよ。イバライガーブラックって、どの人が撮った写真でも目線が合っているんです。2、30m先でカメラを向けられても分かります。ブラック様いつも私の方見ている！とか言われるんです。あれは野生の勘なんです。どの角度で自分が一番きれいに写るかも勉強しています。1cmくらい顎引くだけで、変身した時は見栄えが違うんです。だからそういうところまで、指の先まで通っている血がヒーローじゃなきゃダメだよ、と若い子に教えてます。

うちの教えは、魂の無い者は袖を通させないというものです。どこかで自己満足になってしまうヒーローがあまりにも多くて。ただ足を運んで見に来てくれた人たちへの感謝の気持ちがあれば、誰でも袖を通していいと思っています。

うちの場合は抜けちゃう子が少ないんです。僕が作って未だに現役でやっているんで、みんな僕からエネルギーをいっぱい貰っていると思います。その背中をずいぶん見ていると思うんです。僕が袖通していく時とか、基本的にみんな話しかけないですよ。僕が怪我している状態でテーピングしている姿とかみんな見て、人間の状態では脚引きずっていても、ステージに立ったら脚引かない、引けないです。なるべくファンにも負担をかけないようにしなきゃいけない。ヒーローイコール愛も悲しみも憎しみも全部受

け入れて、それでも、一人でも、全員を敵に回してでも前に進んでいくくらいの根性が無いとダメなのかな、って思うんですよね。スーツのファスナー閉めるビュッって音、マスクの金具を閉めるカチッって音がする時には、そういう状態ですよ。そこからは自分じゃない。

僕が各スタッフに言っているのは、子供たちにはいつもエネルギー与えてね、子供たちからはエネルギー貰っちゃだめだよ、そういう風にしてます。大人もそうですけれど。貰うって事は一切しないで、エネルギーは自家発電しなさい、ってことです。自分の寿命を削って行って他の人に分け与えている、そんな感じにいるんですね。

震災では変身したまま、地域の壊れた屋根の修復や避難所回りをしました。ヒーローに会いたいんだけど、大変な状況にあって来れない人には、自分から会いに行かなくちゃいけないと思います。ヒーローは手が届く、というイメージだったんですよ。3歳くらいの頃に目に焼きついたウルトラセブンの人によくしてもらったという記憶は忘れられないですね。

自分を後回しにしてまで、守らなければならないヒーローとしての順序があると思います。片道キップで施設に向かう事もありました。イバライガーは呼べば来てくれるヒーロー、ヒーローとは映画の様に同時にハブニングが起き、その時に個人的使命を後回しにする職人の様なモノです。

これからのについて

カッコよさを出すことよりも、維持する方が大変、というのが本音です。楽しみは一杯ありますけれど、トップに立つと経済的な部分がありますよね。自転車操業なんで電気が止まったり。そういう時ってやっぱり孤独感が増えますよね。でも県民の人たちが、みんなイバライガーを知ってくれている状態じゃないですか。だからこれを次の世代に持って行ってあげるべきかな、その中で自分が耐え忍んで犠牲になるしかないのかなど。でもどうせ続けるのなら、苦しいばかりじゃなくて自分が楽しめる方がいいんじゃないか、と切り替えて、グリーティングとかでは爆発的にオチャラケているんですね。

今のヒーローってクライアントがお金を出して、お客さんはそこに無料で呼ぶじゃないですか。いつかそういう仕組みじゃなくて、みんながお金を出しても見たいような、そのくらいの価値に引き上げるべきじゃないかと思っています。そのためには、ヒーローを生き延びさせなければならぬ、そして一般人を巻き込んだ深い理解が必要だろうと思っています。平日ボランティアで子供たち喜ばせて、腕プルプルしながら何十人も抱っこして、でも園長先生から、君たちはいいよね、俺達の税金で食ってるんだから、とか言われることもあります。上に立っている人の人間性が下に広がっていくので、ヒーローの人たちにもやってほしいですよ。

カッコいいとかカッコ悪いとか、フォルムの話じゃなくて、志があれば、ヒーロー全体がもっと良くなるのかなと思います。トップの人が率先してやっていけば、団体も変わるし。どこの世界でもそうですけれど、楽しければそれでいいよ、で終わっちゃうんで。志持ってくれたら、日本はヒーローが一杯いて、楽しくなると思うんですけどね。

(2016年9月13日 於『茨城元気計画』)

卯都木 睦 (うつぎ あつし)

1967年生。茨城県出身。2007年から『時空戦士イバライガー』を運営。現『茨城元気計画』代表。HPは <http://www.ibaliger.com/>

小濱 佑基氏 『激神ザンドー』

最初のヒーロー体験

3, 4歳の頃には特撮番組を見ていました。小学校3, 4年生くらいで一旦離れましたが、中学1年生の頃、美術部のヒーローオタクの先輩に影響されて、戻りました。

僕にローカルヒーローを教えてくれたのは『鳳神ヤツルギ』でした。テレビを見始めたばかりの時に、丁度家の近くでヤツルギのアクションショーがあったんですよ。中学校卒業したばかりの春でした。握手会に参加したものの、こんな大きい奴が子供にまぎれていて良いのかと内心不安だったんですが、ヤツルギさんが強く手を握ってくれたんです。よく来たね、みたいな感じで。凄く熱意を感じて、感動しました。翌日に大手のテレビヒーローのアクションショーに行ったら、握手が減茶苦茶軽かったんですよ。それがヤツルギに興味を持ったきっかけでした。

ローカルヒーローのデザイナー

『鳳神ヤツルギ』の社長さんに、将来造形やデザインの世界に行きたいとお話する機会がありまして、じゃあ君が考えてくれた怪人を僕に見せてよ、って言って下さったんです。そしたら送ったデザインが「アヤカシアイロン」という怪人になりました。その後、ヤツルギに出演していた役者さんの宮澤天さんから、ローカルヒーローをやりたいんだけどデザイン描いてくれませんかと依頼されまして、「グランマサラー」というヒーローのデザインをさせていただきました。ヤツルギの社長さんからは、これからもデザイン見せて、って言っていただいていたので、頑張ってお渡ししたら、そのうちの 하나가『ヤツルギ4』の怪人「フィアースワン」となりました。

「グランマサラー」と「フィアースワン」を描いた間頃の時期に、自分で作って演じた最初のヒーロー「デルタライトニング」がデビューしました。高校の体育祭で競技の合間に行われる余興がありまして、じゃあ俺の学校のヒーロー考えて作って出よう、って。この時は顔出しで、マスクはありませんでしたが、美術工芸科の先生方が、文化祭ではちゃんと顔も作って、ヒーローやったらどうだと言ってくれたんです。生徒を尊重して下さる、優しい先生方でした。それから友達の子供会の女の子も、生徒会から依頼する、って言うてくれて。デザインから造形まで自分で作りました。2014年11月3日の学園祭の時、初めてヒーローとして出ました。学園祭のスタンプラリーの企画で、教室を借りて、スタンプ押すヒーローでした。ただスーツは、ガムテープとダンボールが丸見えのひどい状態でした。その後、三年生を送る会で、軽音部のバンドが始まる前にマイクを渡すという仕事もやりました。でも全然認知されなくて。批判も来ましたよ。気持ち悪いとか、あいつコスプレかよ、とか。全然理解をしてくれる人はいなかったです。

ザンドーの誕生

2015年3月に豊島で開催された『マイヒーローグランプリ』にファンとして参加したところ、ブログにアップしていたデルタライトニングを見てくれた業界の方が、ローカルヒーローやってみないか、イベントに出ないかと言って下さったんです。ただ久しぶりにデルタライトニングを見て、いやこれで人前に出たくない。じゃあ新作を、ということで、激神ザンドーを作ることにしたんです。

実はザンドーというのは、ツイッターの妄想ヒーローと

して、デルタライトニングよりもっと前からいたんです。子供が好きそうなヒーローとして、ワイバーンをイメージしてデザインしています。

2015年5月2日の、ヤツルギさんのダンスイベントがデビューで、憧れのヒーローと一緒する夢がかないませんでした。ファンとしても通っていたんで、覚えていて下さったスタッフの方から、今度はお前がヒーローになったんか、って言われました。ただ親とは、赤点取ったらヒーローを辞めるという約束もしていました。

変遷

造形は独学で、ネットを参考に作りました。最初のザンドーの着ぐるみは「ローズ1」といまして、ライオンボードで作ったマスクだったんですが、学校が美術工芸科なので、授業でポリ樹脂を使えたんですよ。学校の卒業制作でザンドーのパワーアップバージョンを作ろうと思っていたら、途中で先生が、ポリ樹脂の作り方教えたから、卒業制作の他にもう一個作っちゃえよって。2015年8月7日、ポリ製の2代目ザンドー「ローズ2」が完成しました。タイプチェンジするローカルヒーローがいてもいいかな、と思い、ローズ1は素手攻撃が強く、ローズ2は武器に一番適したタイプ、ということになっています。ただローズ2はポリの使い方を間違えて、危険なほど重くなってしまったんです。その後製作したパワータイプの「ローズ3」は、マスクは新しくなり、体はローズ1、ローズ2のパーツを組み合わせています。

最初はローカルヒーローってよく分からなくて、スーツを着て、俺は世界を守るぞって言えばいいのかなと、アホなことを考えていました。ただいくつかのイベントに参加する内に、ローカルヒーローというのを改めて知って、思いを持っている人たちに失礼だと思うようになりました。最初の頃ザンドーは、たまたま高校生がやっている市川市のヒーローとしていましたが、高校3年生の夏休みに「学生ヒーロープロジェクト」に参加し、ここから「学生」を軸にした学生ヒーローの路線に行きました。

当初はソロ活動だったんですが、学校の演劇部でヒーローショーをやっていた後輩はじめ5, 6人のメンバーで「ザンドープロジェクトチーム」が始まり、学校の学園祭でショーをやりました。ザンドーの宿敵ウローチョが会場のMCのお姉さんを襲うと、ザンドーが助けに来る。そしたら空き缶をイメージした怪人スチールマンが出てきて、ザンドーはピンチに陥るも勝利する。腕を破壊したらコードが出てきて、みたいな演出もやりました。スチールマンのデザインは後輩が、ウローチョは私が、造形は私がリーダーを務めみんなで作りました。自分が送られる立場の年の「3年生を送る会」のために映画も作りました。僕ローカルヒーローやってます、といっても高校生はわかってくれない。そこで全国に色々なヒーローがいるということを知ってもらいたいと考え、多くの学生ヒーローに映像提供してもらって映画を作りました。ウローチョが襲撃してきて、自分が演じる若者が止めに入り、会場を荒らすと日本中のローカルヒーローが許しませんよ、と言う。その若者が変身してザンドーになるんですけど、すぐにピンチになってしまう。そこにデルタライトニングが助けに来ます。ローカルヒーローをやっている、地元の人が分かるネタがあると応援してくれることを知りましたので、高

校の行事でやったソーラン節のモーションや掛け声を取り入れたり、超必殺技に大学の色々な学科を盛り込んだり、内輪ウケのネタを入れたところ、爆笑が起きました。終わったら会場から拍手が起り、ローカルヒーローを宣伝できました。

今年度から東京フィルムセンター映画・俳優専門学校に入学し、ヒーローサークルのH.A.Tにも入れてもらいました。今のザンドーは、入学してすぐに作ったものです。ただ批判が凄かったんですよ。デブ過ぎて、造形の勉強しているところなので、もっと格好いいのを作れと。でローズシリーズの上に行く「プリンス」を作りました。

ヒーローとして、運営者として

ヒーローは、何事も諦めない者だと思います。あるヒーローさんの言葉ですが、諦めず頑張れば夢はつかめる。綺麗ごとかもしれませんが、難しいことが理解できない子供でも、みんな理解できることだと思います。ただ僕は現実に弱い未成年ですから、頑張れ！と上から目線ではなく、一緒に頑張ろうと言いたいと思います。

ヒーローである以上、ちゃんと活動しなきゃと思います。ツイッターやイラストだけじゃなく、実際に人前に出て活動すべきだと思います。ヒーローやるなら、思いを持って、お客さんの方を向いて、何のためにヒーローやっているのか考えてやるべきだと思います。

高校生でヒーローしていた時は、批判もありましたけれど、背中を押してくれる人もいれば、自分にやってやるぜ！と言う気持ちもありました。気持ちがあれば、できることもあるし夢をかなえることも出来ると思います。それ相応に大変なこともあると思いますが、私は普通の人が体

験できないことを体験できたと思います。ヒーローだけじゃない、何でもですけどね。ヒーローやってる人は普通じゃないと言われるけれど、バイトが大変なのと同じだと思います。

ザンドーは今後も続けて行きたいと思っています。造形師を本職としながら、週末はローカルヒーローをやりたい、本当に難しいけれど、そういう気持ちで頑張っています。家庭や仕事を支えながら、休みの時にヒーローをやっている方々がいて、私は尊敬しています。人気はなくても、どこかで見ている人が一人でもいれば、やりたいと思っています。

(2016年9月25日 於 江古田駅前マクドナルド)



小濱 佑基 (こはま ゆうき)

1997年生。千葉県出身。2015年から『激神ザンドー』を運営。公式ブログは <http://ameblo.jp/gekijinn/>

城西大学経営学部 石井龍太ゼミナール活動報告 (2015年4月～2016年11月)

城西大学経営学部 石井ゼミナールでは、「ローカルヒーロー」を通じた教育・研究活動を行っています。またオリジナルヒーロー「ユニベーターJ」(上写真 2015年～)「リベレスパーJ」(下写真 2016年～)を運営しています。

「ユニベーターJ」出動履歴

- 2015年11月2日 城西大学 高麗祭 (城西大学坂戸キャンパス)
- 2015年11月8日 福島復興チャリティーイベント (埼玉県飯能市)
- 2015年11月21、22日 2015日本ローカルヒーロー祭 (千葉県千葉市)
- 2015年11月29日 坂戸市イルミネーションまつり (埼玉県坂戸市)
- 2015年12月18日 JU ライトフェスティバル (城西大学坂戸キャンパス)
- 2016年2月16日 城西大学経営学部 入学前体験講座「ゆるきゃら×ローカルヒーロー+「ユニベーターJ」ステージショー」(城西大学坂戸キャンパス)
- 2016年4月2日 第32回鶴ヶ島桜まつり (埼玉県鶴ヶ島市)
- 2016年5月29日 第1回東京ローカルヒーローシアター (東京都江戸川区)
- 2016年7月15日 坂戸七夕まつり (埼玉県坂戸市)
- 2016年8月7日 国際交流フェア 2016 (埼玉県鶴ヶ島市)
- 2016年10月1、2日 2016日本ローカルヒーロー祭 (千葉県千葉市)
- 2016年11月4日 城西大学 高麗祭 (城西大学坂戸キャンパス)
- 2016年11月6日 復興支援チャリティーヒーローズ 2016 (埼玉県飯能市)
- 2016年11月13日 第31回鶴ヶ島産業まつり (埼玉県鶴ヶ島市
※リベレスパーJとのコラボショー)

「リベレスパーJ」出動履歴

- 2016年10月1、2日 2016日本ローカルヒーロー祭 (千葉県千葉市)
- 2016年10月23日 三芳野公民館文化祭 (埼玉県坂戸市)
- 2016年11月13日 第31回鶴ヶ島産業まつり (埼玉県鶴ヶ島市
※ユニベーターJとのコラボショー)



ローカルヒーロー通信 第1号

2016年(平成28年)11月13日発行

編集 石井龍太

発行 城西大学経営学部石井龍太ゼミナール

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

ご意見、お問い合わせは ishuur@josai.ac.jp

※無断転載・複製を禁じます